

発行：日本リスク研究学会 (The Society for Risk Analysis, Japan)

会長：関澤 純

事務局：〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35

関西大学社会学部 土田研究室気付 発行責任者・事務局担当理事 土田 昭司

TEL. 06-6368-1121(代) FAX. 06-6368-0735

E-mail: srajapan@soc.kansai-u.ac.jp

Internet Home Page: <http://dss.sys.eng.shizuoka.ac.jp/srajapan/>

本年度より、事務局は上記に移行しました。筑波大学の旧事務局あての連絡 (e-mail、郵便、電話、Fax) は新事務局には一切届きません。特に、入会手続きや論文の投稿を旧事務局あてには行わないでください。

— 目次 —

1. 第3回東アジア・リスク研究学会【第17回研究発表会】(call for paper)
  2. 準会員(院生会員)に対する「第3回東アジア・リスク研究学会」への旅費等補助
  3. 年次総会報告
    - (ア) 現会員数
    - (イ) 2003年度活動報告と決算
    - (ウ) 2004年度活動計画と予算
    - (エ) 規定改正
    - (オ) 第9期役員選出
  4. 事務局だより
    - (ア) 第35回(第8期第4回)理事会議事録
    - (イ) SRAニュース(採録)
    - (ウ) 会員通信・連絡の即時性の強化のためのe-mailアドレスの通知と更新のお願い
- 【資料1】第3回東アジア・リスク研究学会研究発表会の案内(韓国側による second circular)
- 【資料2】2003年度活動報告と決算
- 【資料3】2004年度活動計画と予算
- 【資料4】新規定(2004年6月18日より実施)
- 【資料5】第9期役員名簿
- 【資料6】Journal of Risk Research [vol. 7, No. 4&5]、Risk Analysis [Vol. 24, No. 3]の contents

1. 第3回東アジア・リスク研究学会研究発表会【第17回研究発表会】(call for paper)

2004年度の第17回研究発表会は、韓国にて開催される第3回東アジア・リスク研究国際学会研究発表会の一環として下記の要領で開催されます。多くの会員の参加と発表をお待ちしています。

- ・ 日 時：2004年11月4日～6日
  - ・ 会 場：梨花女子大学(ソウル、韓国)、宿 舎：延世大学
  - ・ 参加ならびに発表申込：
    - 参加・発表申込の締切期日：2004年9月9日
    - 発表アブストラクト提出の締切期日：2004年10月5日
- 参加・発表申込、発表アブストラクト提出ともに、<http://www.koset.or.kr/Risk2004/main.html> からオンラインで行ってください。[ただし、参加・発表申込については【資料1】の参加・発表申

込申込書(Registration Form)に必要事項を記入の上、ファックスにて韓国側準備委員会(+82-42-860-7399)に申込みすることもできます。]

- ・ 日本リスク研究学会会員の発表については、口頭発表とポスター発表の割振りなどを本学会の準備委員会が責任を持って行います。
- ・ 詳細は韓国側準備委員会から発行された案内(韓国側による second circular)【資料1】、あるいは、<http://www.koset.or.kr/Risk2004/main.html> をご覧下さい。

## 2. 準会員(院生会員)に対する「第3回東アジア・リスク研究学会」への旅費等補助

「大学院生へ海外渡航費を助成します」

日本リスク研究学会では、韓国ソウルで今年11月4-6日に開催される第3回東アジア・リスク研究学会研究発表会【第17回研究発表会】に論文を発表する大学院学生を支援します。

リスク研究会の会員で、論文発表する大学院学生に対して、1人あたり5万円を限度として2-3名の会員に渡航費、登録料金(期日までの登録なら50ドル)などを支援致します。希望する人は、発表する論文のタイトル、アブストラクト、所属、必要な助成金の見積額などを本学会事務局に9月15日までに提出してください。選考の結果を9月末に連絡致します。

なお、この支援は現在本学会の会員でない人であっても、発表のために本学会への入会を申込み者に対しても適用されますので、お知り合いの大学院学生にふって応募されるようお知らせ下さい。

## 3. 年次総会報告

2004年度の年次総会が、6月18日(金)に東京大学山上会館において開催され、次の議案が諮られました。

(ア) 現会員数:

2004年4月1日における本学会の会員数は計576名であるとの報告が事務局からあった。

	継続	新規入会	合計	退会
正会員	464(413)	56(67)	528(484)※	20(26)
準会員	33(30)	9(9)	34(35)※	2(9)
賛助会員	13(10)	1(3)	14(13)	0(2)
合計	510(453)	66(79)	576(532)	22(37)

(※内8人は準会員から正会員に移行)

(イ) 2003年度事業報告と決算:

理事会より【資料2】のように2003年度事業報告と決算報告がなされ承認された。

(ウ) 2004年度事業計画と予算:

理事会より【資料3】のように2004年度事業計画と予算案が提案され承認された。

(エ) 規約改定:

本学会規約のうち、委員会の設置、部会の設置、規約改定規定、事務局の変更についての提案が理事会よりあり、理事会提案のとおり改定することが決議された。【資料4】

(オ) 第9期役員を選出:

理事会から、第9期(2004.4.1-2006.3.31)役員として、関澤純会長、土田昭司副会長、深田智久会計監事、他25名の理事の提案があり、理事会提案のとおり選出された。【資料5】

なお、上記規約改定により各役員はいずれかの委員会または局の活動を担うこととなった。

## 4. 事務局だより

(ア) 第35回(第8期第4回)理事会 議事録

日時:2004年6月18日(金)10:00~12:30

場所:東京大学山上会館会議室

出席者:池田三郎、内山巖雄、大島輝夫、加藤順子、甲斐倫明、兜真徳、小林定喜、酒井泰弘、関澤純、高尾厚、谷口武俊、田中勝、土田昭司、東海明宏、麓哲夫、松本優、間生理恵、盛岡通(五十音順)

#### 1. 会員移動(事務局)

(1)現状(4/1現在)について、資料1に基づき報告され、承認された。

・正会員は新規56(+1:申込未手続者)、退会20で、合計528(+1)

・準会員は新規9、退会2で、合計34

・賛助会員は新規1、退会0で、合計14

(2)シンポジウム参加時に会員を希望する者は原則認め(会員を増やす方針から)、次回の理事会で承認するプロセスとする。

(3)部署変更等に伴う正会員の変更は(実質的には法人会員として扱うことになるが)認めることとする。

#### 2. H15年度事業報告と決算(池田理事)

(1)資料2に基づき報告された。また、麓理事からH15年度の監査について「適切に処理されていた」との報告がなされ、承認された。

#### 3. 規定(案)について(大島理事・関澤副会長)

(1)規定改定ワーキンググループ資料に基づき報告され、以下について承認された。

##### 1)新設規約条文

(A)「(委員会)第9条 本会の目的を達成するために理事会の決議により委員会をおく。2会務に関する常設の委員会は以下のものとする。学会誌編集委員会、事業委員会、学会表彰選考委員会。3 委員会については別途細則で定める」

(B)「(部会)第10条 本会の目的を遂行するために分野ごと、あるいは主題ごとに活動する部会を設けることができる。2 部会は理事会の決議を経て新設、廃止する。3 部会については別途細則で定める」

(C)「(規約の改正)第11条 本規約の改正は理事会の決議を経て提案され、総会において出席正会員の過半数の同意により行う。」

##### 2) 変更についての案

「(事務局)第8条 本会は主たる事務局を筑波大学社会学系池田研究室に置く」を「(事務局)第8条 本会は主たる事務局を関西大学 社会学部土田研究室に置く」と変える。

(2)次の点については検討事項として今後更に検討することとした。

- ・ 委員会の構成と役割の明記に関する事(新設):特に会長、副会長、理事の職務の明記、学会誌の編集委員会、事務局の運営、ホームページの管理に関する事など。
- ・ 事業部会の設立および任務に関する事(新設):事業部会設立の要件と、任務について。
- ・ アメリカSRAとの関係および会員および役員の資格に関する事(改定):SRAを親学会(現行の4条、5条、6条)とし、SRA会員は自動的に本学会の会員と認められ、また役員はSRAの会員ともなっている点の改定。また必要に応じて特別会員などの制度を設けるかの点について検討。
- ・ 学会賞と表彰などに関する規定(新設):学会の提供する表彰制度を明文化し、功労賞のような制度を新設する点について。
- ・ その他(新設):事務員に関する記載を追記、委託研究に柔軟に対応する規定の追記。

#### 4. 次期役員について(内山会長、関澤副会長)

(1)次期3役 会長:関澤純、副会長:土田昭司、会計監事:深田智久、が承認された。

(2)理事メンバー(事業委員会、学会誌編集委員会、学会表彰委員会、規約検討委員会、事務局)が次のように承認された。[◎は各委員会、局長](順不同)

- ・ 事業委員会:◎田中勝、関澤純、近本一彦、岡田憲夫、大島輝夫、倉田健児、山田友紀子
- ・ 学会誌編集委員会:◎東海明宏、兜真徳、内山巖雄、谷口武敏、森宮康、森澤眞輔、田村祐一郎、甲斐倫明、高尾厚、佐藤照子、松本優
- ・ 学会表彰委員会:◎酒井泰弘、盛岡通、木下富雄
- ・ 規約検討委員会(常置でなく、今期特別で必要に応じて継続する):◎大島輝夫、池田三郎、小林定喜、加藤順子
- ・ 事務局:◎土田昭司、前田恭伸、間生理恵

#### 5. H16年度予算(案)(土田理事・事務局)

- (1) 資料3に基づき報告され、以下の事項を反映する条件で承認された。
- (2) 支出を減らす観点から、名簿は作成せず、また学会誌は3号作成から2号作成とする。また、部会運営援助は1部会あたり年間10万円までとする。その他項目についても、支出を減らす努力を行うと共に、収入を増やす努力を行う。

#### 6. 春期講演シンポジウム(大島理事)

本日のシンポジウムの内容等について説明があった。

#### 7. 第3回東アジア・リスク研究学会研究会発表会(関澤副会長)

資料4(韓国 Prof. Kitae Rhie のメールと関澤報告案)に基づき報告され、以下の点を交渉する条件で承認された。

- (1) 参加登録料の\$500は高すぎるため、交渉して下げる必要あり。
- (2) Plenary Lecture が6つも有り多すぎる。これを減らし一般の発表や討議を増やす。
- (3) Second Circular を早めに準備すべきこと。
- (4) 現在の韓国の学会案内では発表を前日まで受け付けるような不備があり、早急にコンタクトして適切な準備体制をとること。
- (5) 学生の参加と発表を奨励するため優秀な発表への旅費支援も検討すること。
- (6) なお、会長及び副会長より、日本からの研究発表、参加者が十分な数となるよう理事全員への協力要請があった。

#### 8. 学会誌の刊行・編集状況(東海理事)

- (1) 以下の事を検討する条件で承認された。

・12月号への東海村で実施された内容の記載

- (2) 校閲に関する質問に対しては、新しい編集委員会で検討し回答する。

#### 9. JST「環境リスク管理の人材育成プログラム」(盛岡理事)

盛岡理事より説明があり、学会としてもこれに対応する部会を新たに設置して支援する事が承認された。

#### 10. リスク用語集の進捗状況(甲斐理事)

資料に基づき体裁で纏め、遅れ気味ではあるが今年の8月に丸善に入稿するスケジュールで進めたいとの説明があった。

#### 11. その他

- (1) 池田理事より、学会誌への投稿者の1人から審査についての質問があったことが報告され、池田理事の原案のとおり質問者に対して回答することとした。また、今後はこのような事項については編集委員会において処理することとした。
- (2) 事務局においてホームページ(英文)の整備について検討することとなった。

#### 配付資料

資料1 会員状況

資料2 2003年度事業報告と決算

資料3 2004年度予算案

資料4-1 第3回東アジア・リスク研究学会研究会発表会[関澤副会長報告]

資料4-2 第3回東アジア・リスク研究学会研究会発表会

[ Prof. Kitae RHIE, Ph.D.からのメール ]

以上

#### (イ) SRAニュース (採録)

2004年度のSRA大会は、カリフォルニア州Palm Springsにて12月5～8日に開催されます。

#### (ウ) 会員通信・連絡の即時性の強化のためのe-mailアドレスの通知と更新のお願い

学会・シンポジウム・研究会などのお知らせにe-mailによる連絡が増えています。それに伴い、会員のアドレスが更新されていなくて、配信が差し戻されるケースも増えています。最近、数ヶ月間で、SRA-JAPANからのメールが届いていない場合には、再度、e-mailアドレスを、学会事務局に送信してください。

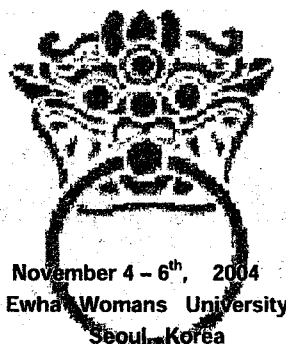
事務局 e-mail : [srajapan@soc.kansai-u.ac.jp](mailto:srajapan@soc.kansai-u.ac.jp)

以上

International Joint Conference  
**「Risk Assessment and Management」**  
 with SRA Japan & China/ KOSET / SETAC A/P

SECOND CIRCULAR

**Sharing Experience of  
 Human and Ecological Risk Assessment  
 and  
 Management in Asia/Pacific Region**



November 4 - 6<sup>th</sup>, 2004  
 Ewha Womans University  
 Seoul, Korea

**Organized by**

Korean Society of Environmental Toxicology (KOSET)  
 Society for Risk Analysis (SRA), Japan  
 Beijing Normal University, Beijing, China  
 Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) Asia/Pacific

**Sponsored by**

Ministry of Environment (MOE)  
 Korean Federation of Science & Technology Societies (KOFST)  
 National Institute of Environmental Research (NIER, Korea)  
 Korea Food & Drug Administration (KFDA, Korea)

**GREETINGS**

On behalf of the organizing committee, we would like to invite you to the KOSET/SRA Japan & China/ SETAC A/P Joint Conference on Risk Assessment and Management. The meeting will be held at the Ewha Womans University, Seoul, Korea from Nov. 4 - 6<sup>th</sup>, 2004.

The theme of this year's conference is 'Sharing Experience of Human and Ecological Risk Science and Management in Asia/Pacific Region'. The meeting will include links among aspects of Ecotoxicology (Aquatic and Terrestrial), Environmental Chemistry (Contaminant Properties, Fate, Modeling, & Monitoring), Environmental Risk Assessment, Civil Life or Health Risk and Food Safety, and Disaster Risk and Management.

The goals of this meeting are bringing together individuals from diverse disciplines and from different Asian Pacific region; providing opportunities to exchange information and sharing ideas; facilitating the dissemination of knowledge about risk assessment and its management.

We sincerely hope that you will join us in Seoul and make this event a memorable one.

Dr. Ki-Hwa Jung  
 (Duksung Women's University)  
 Dr. Yong-Hwa Kim  
 (Korea Inst. of Toxicology)

**ORGANIZING COMMITTEE**

**International Organizing Committee**

Ki-Hwa Jung (Duksung Women's Univ., Korea)  
 Dong-Chun Shin (Yonsei Univ., Korea)  
 Iwao Uchiyama (Kyoto University, Japan)  
 Jun Sekizawa (Tokushima Univ., Japan)  
 Teruo Oshima (Japan Chem. Saf. Inst., Japan)  
 Masaru Tanaka (Okayama University, Japan)  
 Kazuhiko Chikamoto (Japan NUS Co. Ltd, Japan)  
 Norio Okada (Kyoto University, Japan)  
 Shi Peijun (Beijing Normal Univ., China)  
 Yong-Hwa Kim (Korea Inst. of Toxicology, Korea)  
 Christopher Hickey (NIWA, New Zealand)  
 Graeme Batley (CSIRO, Australia)

**National Advisory Committee**

Director, NIER, Korea  
 Director, KFDA, Korea  
 Director, KIRST, Korea

**Scientific Committee**

Jaechun Ryu (KIST, Korea)  
 Youn-Yong Shin (Ewha Womans Univ., Korea)  
 Ki-Tae Rhie (Kyung Hee Univ., Korea)  
 Kyu-Hyuk Jeong (SungKyunKwan Univ., Korea)  
 Hyo-Min Lee (KFDA, Korea)  
 Kyun Kim (Korea Inst. of Toxicology, Korea)

**Secretariat**

Sang-Ki Lee (NISI, Korea)  
 Yong-Wook Lim (Seo-Nam Univ., Korea)

**Official Conference Website**

[http:// www.koset.or.kr/Risk2004/main.html](http://www.koset.or.kr/Risk2004/main.html)  
 Website for each society  
<http://www.sra.org>  
<http://www.koset.or.kr>  
<http://www.setac.org/asiapacific.html>

## TENTATIVE PROGRAM

09:30 - 10:00	Registration
10:00 - 10:20	Opening Ceremony
10:20 - 11:00	Plenary Lecture I ( Dr. Saburo Ikeda, National Research Inst. for Earth Science & Disaster Prevention, Japan)
11:00 - 11:20	Coffee Break
11:20 - 12:00	Plenary Lecture II ( Dr. Shi Peijun, Beijing Normal Univ., China)
12:00 - 13:30	Lunch
<b>Session I</b>	
13:30 - 15:30	A) Ecotoxicology; Aquatic Ecotox      B) Civil Life or Health Risk and Food Safety
15:30 - 16:00	Poster Session / Coffee Break
<b>Session II</b>	
16:00 - 18:00	A) Ecotoxicology; Terrestrial Ecotox      B) Disaster Risk (Fire, Natural & Anthropogenic) and Management
18:00 -	Welcome Reception
<b>Session III</b>	
09:30 - 10:10	Plenary Lecture IV (Mr. David Arnold, Cambridge Environmental Assessment, UK)
10:10 - 10:50	Plenary Lecture V (Dr. Glenn W. Suter, National Center for Env. Assessment, USEPA)
10:50 - 11:20	Coffee Break
11:20 - 12:00	Plenary Lecture VI
12:00 - 13:30	Lunch
13:30 - 15:30	<b>Session III : Environmental Chemistry</b> (Physicochemical Property, Fate, Modeling & Monitoring and Environmental Risk)
15:30 - 16:00	Poster Session / Coffee Break
<b>Session IV</b>	
16:00 - 18:00	<b>Session IV : Environmental Risk Assessment</b> (Environmental Risk Recognition & Communication, Economic or Social Risk and Their Governance)
18:00 - 18:10	Closing Remarks
Optional Tour Program	

### Abstract / Poster Format

Authors are invited to submit an abstract related to the topics of the conference by Oct. 5, 2004. Abstracts will be considered for oral presentation session or poster session.

Abstracts should be submitted via internet in MicroSoft Word format. To submit, visit the website at <http://www.koset.or.kr/Risk2004/main.html>. Abstracts must be submitted and presented in English and type-written on a single side A4-format, of a quality to allow direct reproduction. Please leave a 3cm margin around all four sides of the page and use Times New Roman font of 12 point size. The title should be centered in bold capital letters with the author(s) name(s) and address(es) on a separate line. A single line space should be left between the title, author(s) and address(es) and 2 lines before starting the text.

A board size of 95cm(width) X 240cm(height) will be provided for the display of posters. It is advised to put the poster on the designated board by using tape or pin supplied by the organizer. All presenters are required to pre-side at their poster panel throughout the poster session for anticipated discussion with participants.

### Registration

On-line registration is now open. Please complete the registration form on our web site(<http://www.koset.or.kr/Risk2004/main.html>) with the appropriate fees at your earliest convenience, but no later than Sept. 9, 2004. For SETAC A/P members, please download the form from the web site or use the registration form attached in the back. Completed form can be faxed to 82-42- 860-7899 or mailed to [mklee@kitox.re.kr](mailto:mklee@kitox.re.kr). The registration fee will cover conference materials, lunches, welcome reception, and refreshments. The registration fee and payment schedule is as follows:

	Member	Non
Overseas	US\$ 200	US\$ 250
Developing country	US\$ 100	US\$ 150
Student	US\$ 50	US\$ 70
Local	60,000 won	100,000 won
Student	30,000 won	30,000 won

\* SETAC Members : Payment should be directly made to SETAC A/P office by Bank Draft.

Account No : 333-138449-02-005 (Woori Bank, Daejeon, Korea)

Account Holder: Yong-Hwa Kim

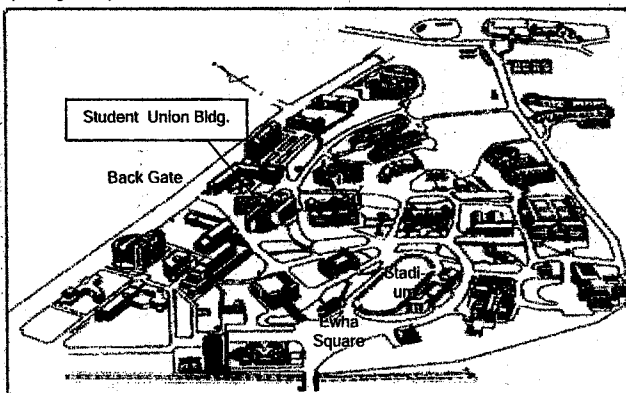
\*\* Local participants : On-site registration only

### Accommodation

Reasonably priced rooms will be available at the guest house within the venue and Yonsei University which is 5 minutes walking distance from the venue. A block of rooms has been reserved for delegates.

## Venue & the Map

Ewha Womans University, the venue, is one of the largest women only university in the world. It is located in Shinchon area, a stretch just north of the Han river. This area is so called "campus town", a home for 4 of the most prestigious private universities.



## Language

The official language for the conference is English.  
No simultaneous translation will be provided.

## Tour Programs

Seoul, the capital city of Korea, is home to 10 million people. The city is the center of finance, politics, commerce, recreation, education and culture. The city shows stark contrast between oriental and western cultures and filled with variety of things to do and see. Visit to Korea will be enriching and exciting experience.

Official tour programs are not organized at this time. Website([http://www.visitseoul.net/english\\_new/index.htm](http://www.visitseoul.net/english_new/index.htm)) will provide helpful information on Seoul and tour tips. For enquiries or reservation of tour programs of your choice, please mail to contact person.

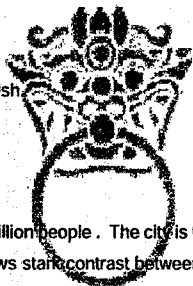
## Transportation

### 1. By bus from Incheon International Airport

The limousine bus No. 601 and No. 602 are available at the bus stop #5B, #6A, #12A, and #12B on the 1st floor at Incheon International Airport. Buses depart every 5 to 15 minutes. Get off at the Shinchon subway station which is the nearest stop from the venue. The fare for No. 601 is 5,500 won(approx. US\$ 5) and No. 602 is 6,000 won. It will take about one and a half hours. From the Shinchon subway station, it takes about 5 minutes to the venue on foot.

### 2. By Taxi from Incheon International Airport

The fare including toll should be around 45,000 won(approx. US\$ 38) for a regular taxi or 64,000 won(approx. US\$ 53) for a deluxe taxi. It will take about one and a half hours from the airport. However, fare and time are subject to traffic condition.



## Important Dates

Early Registration Deadline: September 9, 2004  
Abstract Submission Deadline: October 5, 2004

## Contact Person

SRA Japan: Prof. Shoichi Tsuchida (Kansai University)  
Fax: 06-6368-0739, e-mail: [sra-japan@soc.kansai-u.ac.jp](mailto:sra-japan@soc.kansai-u.ac.jp)  
KOSET: Mr. Y.S. Park (Kyung Hee Univ.)  
Tel: 82-2-961-0683, Fax: 82-2-963-9339  
e-mail: [biowinhaya@hanafos.com](mailto:biowinhaya@hanafos.com)  
SETAC A/P: Ms. Miyoung Lee (Korea Inst. of Toxicology)  
Tel: 82-42-860-7477, Fax: 82-42-860-7399  
e-mail: [mkleee@kitox.re.kr](mailto:mkleee@kitox.re.kr)

International Joint Conference  
『Risk Assessment and Management』  
with SRA Japan & China/ KOSET / SETAC A/P  
[http:// www.koset.or.kr/Risk2004/main.html](http://www.koset.or.kr/Risk2004/main.html)

## Registration Form

International Joint Conference on Risk Assessment and Management

Nov. 4 - 6th, 2004

Ewha Womans University, Seoul, Korea

Deadline for advance registration: September 9, 2004

**SETAC A/P members only** : The completed form can be faxed to 82-42-860-7399 or mailed to mklee@kitox.re.kr.

**Other delegates** : Please use on-line registration system at www.koset.or.kr/Risk2004/main.html

Family Name :		First Name :	
Title :	O Prof. O Dr. O Mr. O Mrs O Ms.		
Affiliation/Organization :			
Department :			
Mailing Address :			
Postal Code :		Country :	
E-mail :		Fax :	
Tel :			
Paper Title :			
In Session ( ) and Theme ( ) your contribution should be presented			
Presentation Form : O Oral O Poster			
Official invitation letter needed? O Yes O No			
Accommodation needed ? O Yes O No			
If answered yes :			
Arrival Date : (m) / (d) / '04		Departure Date : (m) / (d) / '04	

### Registration Fees

SETAC & SRA	Early Registration	On-site registration
Overseas	US\$ 200	US\$ 250
Developing Country	US\$ 100	US\$ 150
Student	US \$ 50	US\$ 70
Local Participant : On-site registration only		

**Payment method for SETAC members : By Bank Draft**

SETAC : 333-138449-02-005 ( Woori Bank, Daejeon, Korea / Yong-Hwa Kim )



資料2 [2003年度 事業報告と決算]

2003年度 事業報告と決算

自 2003年4月1日  
至 2004年3月31日

(1) 収入の部

科目	2003年度予算	2003年度決算	増減
1 会費収入	3,738,000	3,374,320	363,680
正会員 (460X6,000)	2,760,000 (378)	2,268,000	
準会員 (32X4,000)	128,000 (22)	88,000	
賛助会員 (13X50,000)	650,000 (13)	650,000	
前年度分会費	200,000	368,320	
2 事業収入	780,000	1,659,000	△879,000
講演会参加費	180,000	284,000	含懇親会参加費48,000)
(講演資料代2,000X60+3,000X20)			
研究発表会	600,000	1,375,000	(含懇親会参加費129,000)
(参加費・講演論文集代 6,000X100)			
3 その他の収入	1,957,050	2,090,601	△133,551
学会誌等売却他	300,000	420,820	
国際英文誌購読料	657,000	637,600	
(7,300X90部)		(7,000X88+前年度分含)	
セミナー開催費	700,000	1,032,000	
受託研究管理	300,000	0	
利子	50	181	
4 特別会計よりの返済金	0	0	
5 前年度繰越	3,447,966	3,447,966	
収入合計	9,923,016	10,571,887	△648,871

(2) 支出の部

科目	2003年度予算	2003年度決算	
1 学会運営事務費	1,450,000	1,211,119	238,881
複写費	50,000	79,680	
通信費	100,000	139,585	(事務局移転費を含む)
学会事務補助代	780,000	748,800	
(100日X7,800円)		(96日X7,800円)	
情報化事務費	70,000	67,829	
(インターネットホームページ他)			
消耗品	100,000	117,387	
分担金(学術会議)	10,000	10,000	
振込手数料	10,000	750	
委員会事務費	30,000	35,110	(会費納入用振替手数料)
(年会・学会誌・事業(セミナー)・国際等の委員会事務)			
部会運営援助	200,000	11,978	
2 機関誌	2,843,000	1,815,244	1,027,756
News letter印刷	110,000	147,640	
送料・通信費	250,000	296,415	
学会誌出版(2号分)	1,600,000	654,150	
国際英文誌購入(105部)	803,000	717,039	
(7300X110=803,000)			
学会誌編集費	80,000	0	
3 年会等事業費	2,080,000	2,617,946	△537,937
総会・春期講演会	350,000	415,405	
講師謝金	150,000	170,000	
会場費	50,000	119,870	含懇親会90,000)
人件費	40,000	30,000	
理事会費・他	20,000	3,240	
資料代印刷等	90,000	92,295	
研究発表会(年会)	1,070,000	1,110,645	
会場準備費	300,000	185,929	含懇親会79,508)
海外参加者助成金	0	0	
講師旅費・謝金	150,000	50,010	
理事会他援助	20,000	8,517	
論文集印刷費	500,000	735,210	
人件費	100,000	130,979	
セミナー開催費	600,000	1,035,491	
学会賞経費	60,000	56,405	
4 予備費(繰越し金)	3,550,016	4,927,578	
支出合計	9,923,016	10,571,887	△648,871

資料3 [2004年度予算案]

2004年度 予算(案)

自 2004年4月1日  
至 2005年3月31日

(1)収入の部	
科目	2004年度予算
1 会費収入	3,708,400
正会員 (528X6,000)	2,892,800
準会員 (34x4,000)	115,600
賛助会員 (14X50,000)	700,000
前年度分会費	200,000
2 事業収入	180,000
講演会参加費	180,000
(講演資料代2,000X60+3,000X20)	
研究発表会	0
3 その他の収入	1,715,180
学会誌等売却他	450,000
国際英文誌購読料	665,000
(7,000×88部+前年度分含)	
セミナー開催費	600,000
受託研究管理	0
利子	180
4 特別会計よりの返済金	0
5 前年度繰越	4,927,578
<b>収入合計</b>	<b>10,531,158</b>

(2)支出の部

科目	2004年度予算
1 学会運営事務費	2,356,000
複写費	70,000
通信費	150,000
学会事務補助代	936,000
(120日x7,800円)	
情報化事務費	300,000
(インターネット他)	
消耗品	150,000
分担金(学術会議)	10,000
振込手数料(銀行等)	10,000
振込手数料(郵便局)	30,000
委員会事務費	200,000
(年会・学会誌・事業(セミナー)・国際等の委員会事務)	
委員等旅費(遠隔地への参加)	200,000
部会運営援助	300,000
2 機関誌	2,966,500
News letter印刷	200,000
送料、通信費	300,000
学会誌出版(2号分)	1,500,000
国際英文誌購入(105部)	766,500
(7300X105=766500)	
学会誌編集費	200,000
(査読謝金を含む)	(2,000x3人x12本)
JRR編集費	100,000
(査読謝金を含む)	(2,000x3人x6本)
3 年会等事業費	1,430,000
総会・春期講演会	350,000
講師謝金	150,000
会場費	50,000
人件費	40,000
理事会費・他	20,000
資料代印刷等	90,000
研究発表会(年会)	420,000
会場準備費	0
海外参加者助成金	100,000
講師旅費・謝金	100,000
理事会他援助	20,000
論文集印刷費<日本分担分>	200,000
人件費	0
セミナー開催費	600,000
学会賞経費	60,000
4 予備費(繰越し金)	3,118,658
<b>支出合計</b>	<b>10,531,158</b>

## 【資料4】

1988年6月25日制定

1995年6月23日改定

2004年6月18日改定

# 日本リスク研究学会規約

## (名称 Name)

第1条 本会は日本リスク研究学会（英文名称：The Society for risk Analysis：Japan-Section, 英文略称 The SRA-Japan）と呼ぶ。

## (目的 Objectives)

第2条 本会は、わが国のリスク研究の発展と研究者相互の交流を図ると共に、The Society for Risk Analysis（以下 The SRA（親学会）と呼ぶ）の目的と強調して国際交流を促進することを目的とする。

## (事業 Activities)

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1) 研究会、講演会等の開催。
- 2) 会報、出版物の刊行。
- 3) 内外の関連学協会等との交流。
- 4) その他理事会で必要と認める事業。

## (The SRA との関係 The Society-Japan Section Relationship )

第4条 本会の事業活動は The SRA（親学会）の規約と精神を尊重して行う。

## (会員及び会費 Membership and Due)

第5条 本会の会員はリスクに関連する研究に従事し、本会の目的に賛同する下記の者から構成される。

- 1) The SRA（親学会）の会員（国際）、
- 2) 会員（国内）および準会員（国内）、
- 3) 賛助会員、

The SRA（親学会）の会員（国際）は同時に本学会の会員（国内）を兼ねる。会員（国内）および準会員（国内）は The SRA（親学会）の会員（国際）でない個人あるいは学生等で理事会で認める者、また、賛助会員は本会の目的に賛同し、その事業を援助する個人または団体に理事会で承認を受けるものとする。なお、会費は理事会が別に定める細則にしたがって学会事業活動に必要な会費を納めるものとする。

## (役員 Section Officers)

第6条 本会には、会長、副会長（若干名）、理事（複数名）、会計監事（若干名）の役員をおく。役員

の任期は2年とし、定例総会において会員による選挙により選出されるものとする。但し、役員はThe SRA（親学会）の会員も兼ねているものとする。会長は本会を代表してその会務を統括し、理事会では議長となる。副会長は、会長を補佐し、会長不在の時はその職務を代行する。会計監事は本会の財産及び事務執行を監査する。

（総会及び理事会 Annual Meeting & Council）

第7条 本会は毎年1回定例総会を開催する。総会は会員の1/3以上の出席（委任状を含む）により成立し、出席者の過半数を以て議決する。また、理事会が必要と認めた時、また、会員の1/10以上の請求があった時に臨時総会を開催する。理事会は、会長、副会長、理事により構成され、本会の運営及び事業を執行する。

（事務局 Secretariat）

第8条 本会は主たる事務局を関西大学社会学部土田昭司研究室（〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35）に置く。

（委員会 Committees）

第9条 本会の目的を達成するために理事会の決議により委員会を置く。

2 会務に関する常設の委員会は以下のものとする。学会誌編集委員会、事業委員会、学会表彰選考委員会。

3 委員会については別途細則で定める。

（部会 Chapters）

第10条 本会の目的を遂行するために分野ごと、あるいは主題ごとに活動する部会を設けることができる。

2 部会は理事会の決議を経て新設、廃止する。

3 部会については別途細則で定める

（規約の改正）

第11条 本規約の改正は理事会の決議を経て提案され、総会において出席正会員の過半数の同意により行う。

附 則

本規約は学会設立の日からこれを実施する。

附 則

本規約（改定）は1995年6月23日からこれを実施する。

附 則

本規約（改定）は2004年6月18日からこれを実施する。

【資料5】

第9期(2004.4.1.~2006.3.31.) 役員

【会 長】

関澤 純 (事業委員会)【徳島大学総合科学部教授】

【副会長】

土田 昭司 (◎事務局)【関西大学社会学部教授】

【理 事】(五十音順)

池田 三郎 (規約検討委員会)【(独)防災科学技術研究所総合防災研究部門客員研究員】

内山 巖雄 (学会誌編集委員会)【京都大学大学院工学研究科教授】

大島 輝夫 (事業委員会) (◎規約検討委員会)【化学品安全管理研究所所長】

岡田 憲夫 (事業委員会)【京都大学防災研究所教授】

加藤 順子 (規約検討委員会)【(株)三菱安全科学研究所リスク評価研究センター部長研究員】

甲斐 倫明 (学会誌編集委員会)【大分県立看護科学大学人間科学講座教授】

兜 真徳 (学会誌編集委員会)【(独)国立環境研究所地域環境研究首席研究官】

木下 富雄 (学会表彰委員会)【甲子園大学学長】

倉田 健児 (事業委員会)【経済産業省産業技術環境局産業技術総合研究所室長】

小林 定喜 (規約検討委員会)【内閣府原子力安全委員会事務局技術参与】

酒井 泰弘 (◎学会表彰委員会)【滋賀大学経済学部教授】

佐藤 照子 (学会誌編集委員会)【(独)防災科学技術研究所防災研究情報センター室長】

高尾 厚 (学会誌編集委員会)【神戸大学大学院経営学研究科教授】

谷口 武俊 (学会誌編集委員会)【(財)電力中央研究所経済社会研究所主任研究員】

田村 祐一郎 (学会誌編集委員会)【流通科学大学商学部教授】

田中 勝 (◎事業委員会)【岡山大学環境理工学部教授】

近本 一彦 (事業委員会)【日本エヌ・ユー・エス(株)エネルギー事業統括本部マネージャー】

東海 明宏 (◎学会誌編集委員会)【(独)産業技術総合研究所化学物質リスク管理主任研究官】

前田 恭伸 (事務局)【静岡大学工学部助教授】

松本 優 (学会誌編集委員会)【東京海上火災保険(株)コマーシャル業務部リスクマネジメントグループ次長】

間正 理恵 (事務局)【(社)環境情報科学センター主任研究官】

盛岡 通 (学会表彰委員会)【大阪大学大学院工学研究科教授】

森澤 眞輔 (学会誌編集委員会)【京都大学工学研究科教授】

森宮 康 (学会誌編集委員会)【明治大学商学部教授】

山田 友紀子 (事業委員会)【(独)食品総合研究所企画調整部国際食品研究官】

【会計監事】

深田 智久 [(財)電力中央研究所 常務理事]

[◎は各委員会、局の長をしめす]

# Risk Analysis

Volume 24, Number 3

June 2004

Letter to the Editor Regarding Mad Cow Hysteria <i>David W. Gaylor</i>	513
<b>PERSPECTIVE</b>	
How Useful Is Quantitative Risk Assessment? <i>George E. Apostolakis</i>	515
The Potential of Next-Generation Microbiological Diagnostics to Improve Bioterrorism Detection Speed <i>Elizabeth A. Casman</i>	521
Ramifications of Risk Measures in Implementing Quantitative Performance Assessment for the Proposed Radioactive Waste Repository at Yucca Mountain, Nevada, USA <i>Sitakanta Mohanty and Richard B. Codell</i>	537
Mesothelioma Among Brake Mechanics: An Expanded Analysis of a Case-Control Study <i>Patrick A. Hessel, M. Jane Teta, Michael Goodman, and Edmund Lau</i>	547
Quantification of Variability and Uncertainty Using Mixture Distributions: Evaluation of Sample Size, Mixing Weights, and Separation Between Components <i>Junyu Zheng and H. Christopher Frey</i>	553
Comparison of Sensitivity Analysis Methods Based on Applications to a Food Safety Risk Assessment Model <i>Sumeet R. Patil and H. Christopher Frey</i>	573
A Risk Assessment for Occupational Acrylonitrile Exposure Using Epidemiology Data <i>Thomas B. Starr, Christine Gause, Ada O. Youk, Roslyn Stone, Gary M. Marsh, and James J. Collins</i>	587
Estimates of Lifetime-Absorbed Daily Doses from the Use of Personal-Care Products Containing Polyacrylamide: A Monte Carlo Analysis <i>Cynthia B. Van Landingham, Greg A. Lawrence, and Annette M. Shipp</i>	603
The Risk of MTBE Relative to Other VOCs in Public Drinking Water in California <i>Pamela R. D. Williams, Laurie Benton, and Patrick J. Sheehan</i>	621
Value of Information Analysis in Environmental Health Risk Management Decisions: Past, Present, and Future <i>Fumie Yokota and Kimberly M. Thompson</i>	635
Dead Reckoning: Demographic Determinants of the Accuracy of Mortality Risk Perceptions <i>Jahn Karl Hakes and W. Kip Viscusi</i>	651
Agreement Between Scales in the Measurement of Breast Cancer Risk Perceptions <i>Marilyn M. Schapira, Susan L. Davids, Timothy L. McAuliffe, and Ann B. Nattinger</i>	665
Optimal and Acceptable Technical Facilities Involving Risks <i>Ruediger Rackwitz</i>	675
<b>2002 BEST PAPER SPECIAL ISSUE</b>	
Applying the Partitioned Multiobjective Risk Method (PMRM) to Portfolio Selection <i>Joost Reyes Santos and Yacov Y. Haimes</i>	697
Explaining Public Resistance to Genetically Modified Corn: An Analysis of the Distribution of Benefits and Risks <i>Felicia Wu</i>	715
Using Risk Assessment, Benefit-Cost Analysis, and Real Options to Implement a Precautionary Principle <i>Scott Farrow</i>	727
Local Acceptance of a High-Level Nuclear Waste Repository <i>Lennart Sjöberg</i>	737
Computational Modeling of Serum-Binding Proteins and Clearance in Extrapolations Across Life Stages and Species for Endocrine Active Compounds <i>Justin G. Teeguarden and Hugh A. Barton</i>	751
Engineered Containment and Control Systems: Nurturing Nature <i>James H. Clarke, Margaret M. MacDonell, Ellen D. Smith, R. Jeffrey Dunn, and W. Jody Waugh</i>	771
Erratum to "Further Notes on Public Response to Uncertainty in Risks and Science" by Branden B. Johnson, in <i>Risk Analysis</i> , 23(4), 2003	781
<b>BOOK REVIEWS</b>	783

## Journal of Risk Research

Volume 7 Issue 4 June 2004 ISSN: 1366-9877

Editorial: The Risk Society thesis in environmental politics and management – a global perspective <b>Dirk Matten</b>	371
The impact of the risk society thesis on environmental politics and management in a globalizing economy – principles, proficiency, perspectives <b>Dirk Matten</b>	377
Managing toxic chemicals in Australia: a regional analysis of the risk society <b>Suzanne Benn</b>	399
Transitions in environmental risk in a transitional economy: management capability and community trust in Russia <b>Jo Crotty and Andrew Crane</b>	413
Communities as informal regulators: new arrangements in industrial pollution control in Viet Nam <b>Phung Thuy Phuong and Arthur P. J. Mol</b>	431
Regimes of risk management in corporate annual reports: a case-study of one globalizing Australian company <b>Dallas Hanson and Robert White</b>	445

## Journal of Risk Research

Volume 7 Issue 5 July 2004 ISSN: 1366-9877

Editorial <b>Ragnar Löfstedt</b>	46
Fish consumption advisories: knowledge, compliance and why people fish in an urban industry <b>Joanna Burger</b>	46
Genetic testing: affected parties and decision making <b>Galina Galvoronskaia and Knut Erik Solem</b>	48
Did they get it? Examining the goals of risk communication within the Seveso II Directive in a Swedish context <b>Missie Wester-Herber and Lars-Erik Warg</b>	49
Expert assessment of the performance of the US system for environmental regulation <b>Margot T. Brown, M. Granger Morgan and R. Scott Farrow</b>	50
Exposure of the human population to BSE infectivity over the course of the BSE epidemic in Great Britain and the impact of changes to the Over Thirty Month Rule <b>Philip J. Comer and Paul J. Huntley</b>	52
Evaluation of psychosocial and organizational factors in offshore safety: A comparative study <b>Kathryn Mearns, Torbjorn Rundmo, Rhona Flin, Rachael Gordon and Mark Fleming</b>	54
Book review	56